

目指せ！ワンだふる★ペット&飼い主

犬のしつけ お助けBOOK

令和5年5月改訂

龍ヶ崎市 生活環境課

〒300-1622 龍ヶ崎市3710

TEL 0297-64-1111



しつけの基本ルール



犬のしつけは小さな子供に接するように

やりたいことが言葉で伝えられず、良いことと悪いことの判断がつかない。
自分の要求が通らなければなきわめく。
日常生活のどこかで同じような光景を目にしたことはありませんか？
そう、小さな子供が同じような行動を取っていますね。
犬のしつけは小さな子供をしつけるのと同じようなものだと考えてください。
子供でもわかる短い言葉とはっきりした態度を飼い主が繰り返すことで犬は良いことと悪いことを少しずつ覚えていきます。
人間の子供と違って、大きくなれば言葉で理解できるというものでもありません。飼い主がしつけなければ成犬になっても問題のある行動は直らないのです。
飼い主にとっては根気が必要ですが、縁あって家族になったペットです。お互いに楽しく暮らせるようきちんとしつけてあげましょう。



しつけには一貫性を持たせる

同じ行動をしたときに飼い主がしかったりしからなかったりでは犬が混乱します。
家族の間で反応が違うのも混乱のもと。犬の問題行動にどのように対応するか、家族みんなで話し合っておきましょう。
また、「ダメ！」「こら！」「いけません！」など制止の言葉やほめ方が毎回変わっては良いことと悪いことの区別が犬になかなか伝わりません。
早く覚えさせるためにも家族全員で同じ言葉やジェスチャーを使いましょう。





しつけはいつも本気で

しかるときは犬にナメられないように毅然とした態度で本気でしかります。
ほかの事を考えながらだったり、ペットかわいさから仕方ないなあなどと優しさをにじませると犬は敏感に感じ取り、しつけになりません。
ほめるときも照れずにちょっと大袈裟かな？と思えるくらい本気でほめましょう。
犬は飼い主にほめられることが大好き。もっとほめてもらえるようにがんばります。



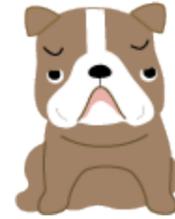
ほめるとき

しつけのなかで一番大事なことはほめること。
でも、実際しつけを始めるとしかってばかりではほめることがおろそかになりがちです。
犬もしかられてばかりではのびのびと育つことができません。臆病になったり、むやみに威嚇するようになってしまいます。
ほめるときには「よし、よし」と声をかけながら首周りや胸元など体をなでてほめてあげます。
こうすることで犬もリラックスして飼い主への信頼や愛情を深めていきます。
犬はほめられることが大好きです。少しオーバーかな？と思えるくらいわかりやすくほめてあげましょう。



しかるとき

一番大事なことはしかるタイミング。
時間が経ってからしかっても犬はなんで飼い主にしかられているのかわかりません。
問題行動を起こしたときや起こす瞬間にしかるのがもっとも効果的です。
真剣な怖い顔で「ダメ！」や「いけない！」と短い言葉でしかりましょう。
そして犬がやめたらすぐににっこり笑顔でほめてあげましょう。
また、頭を叩く体罰は犬が飼い主に触られるのを過敏に恐れたり、咬むなどの問題行動にもつながります。絶対にやめましょう。



バウッ!

無駄吠えについて

犬が吠えているときには必ず飼い主に伝えたい思いがあります。
「運動したい」「お腹が空いた」「さみしい」「遊んでほしい」「トイレに行きたい」等々。

どんなシチュエーションで吠えているのか、なにを求めているのか、まずは犬の気持ちを想像してください。

また、しつこいほど吠えているときは「うるさい！」と一喝した後、目も合わせず完全無視。犬が吠えても無駄だとわかるまで放っておきます。
そして疲れておとなしくなったら要求をきいてあげましょう。

反対にいつまでも吠えているからといって要求をきくと、吠えれば自分の思い通りになると学習してしまいます。
こうなると無駄吠えの多いご近所迷惑な犬になります。

最初は犬との根比べですが飼い主は感情的にならず冷静に対応しましょう。

来訪者に吠える犬は自分の家族を守ろうと警戒していたり、怖がっているのがほとんどです。
この場合は、来訪者が安全だと学習できれば解決します。

来訪者が来る前に犬をハウスに入れ、気持ちが落ち着いたところで来訪者に会わせませす。
その後遊んでもらったり、おやつを与えてもらい危害を加える存在でないことを学ばせませす。

すでに来訪者に向かって吠えている場合は大きい音を出すなどして犬をびっくりさせ、気をそらすことも有効です。

また、このときの大きな音は「天罰」という意味合いのため、やったのが飼い主だと犬にバシしないようにするのがポイントです。



トイレのしつけ

室内犬の場合はサークル（柵）を用意し、そこに犬用ベッド（なければ毛布やタオルでも可）を置き、敷地いっぱい新聞紙を敷き、その上にペットシーツを全面に敷きます。

このとき、最初は犬が寝る場所とトイレの区別がしやすいようベッドを少し高めにするとういでしょう。

そして、犬をサークルに入れ、しばらく様子を見ます。ペットシーツで排泄できたら目いっぱいほめて遊んであげます（ほめるのは排泄中か直後が良いでしょう）。
飼い主にほめられると犬は喜び、ペットシーツの感触を覚え、そこでトイレをするようになります。

犬はもともときれい好きなので排泄したらすぐに片付けてあげましょう。排泄してもすぐにきれいになると感じれば犬も快適でトイレを覚えるのも早くなります。

次に犬が慣れてきたら徐々にトイレシーツの面積を小さくしていきます。良く観察すると犬によって好きなトイレの場所があることがわかります。その場所以外のトイレシーツを少しずつ減らし、全体の面積を小さくしていきます。
この繰り返しで犬はトイレの場所を覚えます。

また、他の場所でそそうしてしまった場合、排泄中ならば大きな音を出すなどして気をそらせトイレに連れて行きます（このときも無理にはしないでください）。
排泄後時間が経ってしまった場合はしかっても効果がありません。
すぐに掃除し、臭いなどでその場所をトイレだと認識しないようにペット用消臭剤や酢などで臭いを消します。

トイレのしつけはしかるよりもほめることが肝心です。
失敗したときに飼い主にしかられたことにより排泄自体が悪いことだと勘違いし、限界までがまんして体調を崩す犬もいます。
また、犬によって覚える期間にも個体差があります。根気良くしつけましょう。

また、排泄中に「おしっこ」と声かけを何度か繰り返すと犬は「排泄＝おしっこ」と覚えます。
おでかけや散歩前に「おしっこ」と声かけをして排泄を済ませておくと外出先での後始末の面倒もなく、ご近所にも迷惑をかけません。
もちろん、もしものときのために後片付けグッズを携帯し、外でしてしまったらきちんと片付けることは飼い主の当然のマナーですので忘れずに。

犬がふんをしたら良く観察しましょう。ふんの状態はコロッとしていてティッシュ等で簡単に取れる状態がベストです。犬の体調は良いのにふんがベチャッとして取りにくいような状態の場合、フードの脂肪が多いか、量が多いことが考えられます。犬によって食事の量も異なりますので、まずは少しずつ少なめから調整して、飼い犬のベストな食事量を調べましょう。



散歩中のリードの引っ張り

外出先では犬の気を引くものも多く、興奮し飼い主を引っ張って思うまま散歩する犬がいます。
散歩は飼い主の歩くペースに合わせて行うのが原則です。

犬にそれを教えるためには、犬を飼い主の横（左側）につけ、飼い主よりも前に行ったらリードをゆるませてから軽く引っ張り、犬に合図を送ります。

強さは犬がちょっと苦しいぞとを感じるくらい。一瞬で構いません。
飼い主の横についたらリードを緩め、一緒に歩き出します。
あくまでも飼い主主導で、方向を変えたときなどもついてきたらほめてあげます。

また、首輪ではなく胴輪だと犬は飼い主からの合図にほとんど気づきません。
最初は首輪で合図を送り、引っ張らないようになったら胴輪に変えてあげるとよいでしょう。

大型犬や力の強い犬の場合、飼い主の合図よりも犬の引っ張る力が強く、飼い主の合図が届きにくいことがあります。
このように飼い主がしつけるのが困難な場合は犬の訓練士などの専門家に相談ししつけてもらいましょう。

また、伸びるリードは本来、公園など放し飼いができない場所で犬と飼い主が遊ぶために使用します。
散歩で使用すると飼い主の目が届かない場所にまで犬が先に行ってしまうことがありますので、散歩のときは適切な長さのリードを使用しましょう。

散歩は飼い主が行う訓練の基本となる大事なものです。
散歩を通して犬は飼い主に従うことを覚え、ほめられることで飼い主への信頼を深めていきます。
しかし、いくら訓練とは言っても犬にとっては遊びの一環です。犬が飼い主との散歩を楽しみにしなければ元も子もありません。

いきなりギュウギュウにしつけるのではなく、訓練の時間を決めるなどお互い楽しみながら少しずつしつけを行いましょう。



噛みぐせについて

犬は子犬のうちの集団生活のなかで兄弟犬や母犬から咬むことのしつけを自然に教わります。

しかし、ペットとして販売されるために早めに母犬や兄弟犬から離された犬には、咬むことが悪い（痛い）という認識がなく、飼い主への意思表示のために咬むことがあります。

子犬のうちは咬まれてもさほど痛くないため甘やかしてしまいがちですが、咬みぐせがついたまま成犬になると周囲の人にケガをさせる危険性があります。必ず子犬のうちからしつけましょう。

飼い主と遊んでいるときに咬んだ場合は、「痛いっ！」と言い、咬むことが悪いことなのだとして犬に教えます。

また、犬は本能的に咬んだものを引っ張って離そうとすると、取られまいと強く咬みつく傾向があります。急に引っ張ると大きな怪我に繋がりますので、咬まれたときには「痛いっ！」と言った後、動かさずにそのままじっと目を合わせて待ちます。するとあきらめて離しますので、離れたらほめてあげましょう。

また、この方法で改善しない場合、咬んだ後は無視をするという方法もあります。

遊んでいるときに咬んだら、「痛いっ！」と言った後、すぐに遊びを中断して無視します。

しばらくして遊びを再開してもまた咬んだら同じように遊びを中断して無視します。

これを繰り返すことで、「咬む＝遊んでももらえない」と犬は学習します。飼い主に遊んでももらえないのは犬にとって一番つまらないので咬まなくなります。

なお、中型犬以上の成犬で攻撃的な犬の場合、必ず犬の訓練士など専門家に相談してください。

また、子犬の場合、歯が生え変わるときにむずむずして咬みぐせが出るときがあります。スリッパやクッション、ぬいぐるみ等を咬んで困ったときには、咬んでも良いおもちゃを代わりに与えます。

それでもまだ日用品を咬む場合には、咬みぐせ防止スプレーを利用する方法もあります。

咬まれた物を取り戻すときには、犬が見ている目の前で取り上げるのは逆効果です。取り戻そうと再度咬みつくことがありますので片づけるときには犬がそれに飽きて遊ばなくなったとき、犬が見ていないときに片づけましょう。



食ふんについて

飼い犬の問題行動の中で、飼い主が一番ショックを受けるのが食ふん（ふんを食べる）ではないでしょうか？

原因は色々なことが考えられますが、子犬の場合は食べたものをうまく消化できず、ふんに栄養が残っていたり、匂いにつられて食べてしまうことが良くあります。

この場合は成犬になるとほとんど改善されますが、早めにやめさせたいときは消化の良いフードに変えたり、食ふん防止のサプリメントやシロップを利用する方法もあります。

また、犬によっては好奇心から食べてしまったり、キャーキャー騒ぐ飼い主の反応を面白がったり、かまってもらうためにわざと食ふんをする犬もいます。

トイレのしつけができていない犬の場合、失敗した証拠隠滅のために食ふんをすることもありますので、食ふんをしているところを見つけてもあえて騒がず無視をしたり、トイレではないところでそそうした場合もしからずに手早く片づけましょう。

良く観察すると飼い犬のトイレのタイミングも把握できますのでメモなどで記録し、周期にあわせて早めに片づけたり、トイレのしつけを行うことで改善が図れます。

また、中にはストレスや病気が原因の場合もありますので、迷ったら必ず獣医師や犬の訓練士など専門家に相談してください。



おわりに

犬も人間と一緒に様々な性格の犬がいます。その犬の性格にあった強さと方法で根気よくしつけを行ってください。それは飼い犬だけでなく一緒に暮らす家族でもある飼い主の幸せにもつながります。

また、ハウスやケージに慣れている犬だと病院や旅行に連れて行くときや万一の災害時にも移動がしやすくなります。飼い主がきちんとしつけていれば共同生活にも対応が可能です。外飼いの犬の場合でも少しずつ慣らすようにしつけましょう。

だいすき
だワン★

